

校 園 名：愛知教育大学附属名古屋中学校

所在地：〒461-0047 名古屋市東区大幸南 1-126

電話番号：052-722-4613

記載日：2016年5月18日

記載者：榊原 将道

記載者役職：教頭

貴校の校風、おおまかな特色について：

自由の中にも、規律があり、子どもたちの自主性を大切に、子どもたちが自分たちで考え、学校生活を主体的に創り上げようとする雰囲気がある。「授業は、子どもと教師とで創り上げるもの」という意識を、子どもたちも教師ももっており、教師の一方的な解説ではなく、子どもたちが学習課題を追究し、自分たちで答えを導き出していこうとする主体的・協働的な学習が行われている。

学校行事についても、子どもたちを主役においた活動が展開されている。クラスマッチ（長縄跳び）、学校祭、合唱祭が三大大行事となっており、特に、2月に行われる合唱祭は一年間の集大成の行事となっている。毎朝、毎帰りに全学級で合唱活動を行っており、1年間かけて他の学級や他の学年とも交流しながら、自分たちの合唱を創り上げている。

また、本校には帰国生徒学級が全学年にあり、海外での貴重な体験を他のクラスに還元したり、協働学習を通じて日本の生活への適応を促し、帰国生徒それぞれの個性と特性を伸張・保持・発展させようとしている。

学区も名古屋市内、尾張地区の広範囲に及び、愛知県西部の広い地域から本校に通学している。同窓生についても、日本中や世界中の各界で活躍する多数の著名人やリーダーを輩出している。

貴校の卒業生の活躍状況について：

① 追跡調査をしているかどうか、また、その方法

特に追跡調査はしていないが、本校の同窓会がしっかりと組織されており、卒業生の活躍の状況がかなりよく把握されており、ネットワークが整備されている。

どの程度、把握できているか、また、その情報はどこが持っているか（大学、学校園、その他）

② 状況を具体的にお書きください

同窓会により、職業やお勤め先などをある程度把握している。その情報は同窓会事務局が管理している。同窓会の講演会等の行事や本校の1年生に向け職業にかかわる講話をしていただくこともあり、とてもよくネットワークが整備され、交流が行われている。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

① 追跡調査をしているかどうか、また、その方法

本校在職経験者の会があり、名簿作成時に現在の勤務先や役職等を確認している。現場で管理職や主任職に就く教員や教育長，教育委員会指導主事等の行政職に就く者も多い。地域や県下の教育的リーダーとして顕著に活躍している。

どの程度、把握できているか、また、その情報はどこが持っているか（大学、学校園、その他）

② 状況を具体的にお書きください

勤務先，立場，住所等の連絡先は概ね把握している。その情報は自校で管理している。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

同じ名古屋キャンパスにある幼稚園・小学校・中学校が連携研究を進めている。お互いに教員が授業や活動を見合い，子どもの成長について理解を深めたり，子どもたち同士が交流を深め，連携した活動を行ったりしている。幼・小・中という流れで，各校園において同じベクトル上にどのような目指す像をもつかということに関して，三校園の教員が共通理解をし，子どもたちの成長をどのように見取り，評価していくのかという点で意義のある研究を進めている。現在は初動研究として，「仲間意識」ということについて，3 校園が連携して研究をしている。この初動研究は2年間実施し，その後は「グローバル人材の育成（仮）」にかかわるような大テーマを設けて，幼小中の連携研究を進めていく予定である。これは，今日的な課題である小中一貫教育，異校種間の連携について，地域にも還元できる研究にできることも目指している。

また，これまでの教科研究についても，21世紀の求められる思考力・判断力・表現力を踏まえ，「意識的に吟味した考えを表現することができる子どもの育成 ～批判的思考を用いた授業の創造～」という主題を掲げ，4年間の継続研究を推進している。

批判的思考を働かせるプロセスについては，京都大学大学院の楠見先生の理論を参考に，手立てや活動を工夫し，深まりのある教育研究をしている。

この研究については，国立教育政策研究所の「教育課程指定校事業」の研究委嘱も受け，次期学習指導要領の目指す中核的な学びについて，先取りをして研究を進めていると自負している。もちろん，毎年，教育研究発表会を開催し，地域はもとより日本全国の教育関係者に研究の成果を発信し，還元しようとしている。

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

地域の学校のモデル校、目標とする学校、精神的な教育を提案する学校となっている。そのため、毎年教育研究発表会には多数の教育関係者が参観に来られ、公開授業や提案を見て行かれる。

また、愛知県下の教育会のリーダー養成校となっている。地区で選ばれた実績や意欲ある教員が人事交流により、本校に赴任しており、本校での勤務終了後は、地元に戻って本校に勤務中に身に付けたことを地域に還元したり、地域の教育をリードしたりしている。まさに、名門校、地域の目標とする学校となっている。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

文部科学省や国立教育政策研究所の教育の動向をよく把握し、最先端の教育を具現化し、地域に発信し、提案していく使命を担っている。本校においても、同様に国の拠点校、地域のモデル校として存在意義は大きく、県下の教育から見ても欠くことができない存在の学校となっている。

文部科学省や国立教育政策研究所等や県教育委員会とのつながり、地域とのつながり、大学とのつながり、本校では隣の小学校や幼稚園とのつながりをいかしながら、最高の教育を実践できる学校を目指している。教科研究においては特に、地域から目標とされる学校となっている。